

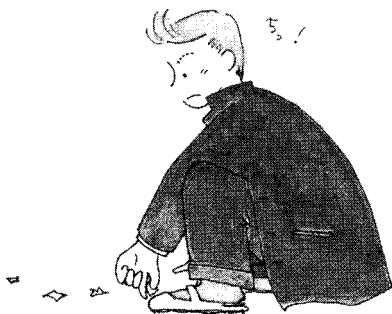
## キーワード7 正 対

Oさんが理科の授業で暴れているという連絡を受け、担任が駆けつけると、一足早く駆けつけた生活指導担当のP主幹が、Oさんの手をつかみ厳しく叱責しているところであった。Oさんは「うるせえ。」と悪態をつきながらも、P主幹に従い理科室を出て行った。

相談室に入ると、P主幹は、「どうした…。事情があるんだろう。話せるなら話してごらん。今話せるか？」と問いかけた。Oさんは、ふてくされながらも事の顛末を話した。

授業が終わると、P主幹は、Oさんを理科室に連れて行き、壊れたピーカーなどを一緒に片付け始めた。興奮すると手が付けられなくなるOさんが、素直に指示に従って片付けている姿を目で追いながら、担任は、数年前の生徒のことを思い出していた。

その生徒は、数々の問題行動を起こしたうえ自主退学をした。彼が退学届を持ってきたときに、「おれは、今まで本気で叱られたことがなかった。」と寂しそうにつぶやいたことがあった。その姿と背をかがめてガラスの破片を拾うOさんの姿が重なって見えた。



P主幹は、Oさんの行為を厳しく叱責していますが、一緒に片付けをするなど、温かみのある接し方をしています。このような、問題に正対した厳しさと温かさを兼ね備えた指導に、Oさんは従っています。

### 行為を認めず気持ちを受容する

教育相談を学んだ教師の中に「叱責や制止をためらうようになってしまった。」と言う人がいます。気持ちを受容することと、誤った行為を見逃すことは違います。「受容」や「見守る姿勢」だけにとらわれすぎて、「正面からぶつかってほしい。」という子供の気持ちに添うことを忘れてしまっ  
てはいけません。

子供の立場に立って、子供の気持ちを理解する。その上で大人の立場に戻って、「気持ちは理解するが行為は認められない」ことをはっきり論ずる。このように、教師が「行為を認めず気持ちを受容する」ことが大切です。

### 見捨てない、見逃さない

学校全体が荒れてしまった中学校で、「見捨てない、見逃さない」をキャッチフレーズに掲げ、建て直しに成功した例があります。どんな子供も決して見捨てない、誤りは誤りとしてその場で正していこうという気迫がこめられた言葉です。

この「見捨てない、見逃さない」姿勢こそが、「正対する」姿勢といえます。「その子のために」決して「見捨てる」わけにはいかない。だからこそ、「その子のために」制止することもあれば、叱責や説諭もする。その子への愛情があるからこそ「見逃す」ことができない。子供は、このような「正対する」姿勢を求めているのです。